

『語音翻譯』札記(中)

竹越 孝

(承前)

6. 語彙篇の中国語

仮に『語音翻譯』の語彙篇と名付ける部分は、全169条のうち以下の139条からなる。まず田中(1991:278-297)により中国語の部分とそれに対応する琉球語の概略的な日本語訳を引くと次の如くである(番号は全条の通し番号):

- (31) 天「空」; (32) 天陰了「空曇った」; (33) 天晴了「空晴れた」; (34) 下雨「雨降った」; (35) 雨晴了「雨晴れた」; (36) 下雪「雪降る」; (37) 雪住了「雪晴れた」; (38) 日頭「太陽」; (39) 日頭上了「日出了」; (40) 日頭落了「日落ちた」; (41) 風「風」; (42) 天亮了「夜明けた」; (43) 清早「朝」; (44) 晌午「昼間」; (45) 晚夕「夕」; (46) 黑夜「夜」; (47) 白日「昼」; (48) 暖和「暖かい」; (49) 天熱「暑い」; (50) 涼快「涼しい」; (51) 向火「火あたれ」; (52) 春「春」; (53) 夏「夏」; (54) 秋「秋」; (55) 冬「冬」; (56) 今日「今日」; (57) 昨日「昨日」; (58) 明日「明日」; (59) 後日「あさって」; (60) 這月「今月」; (61) 來月「来月」; (62) 開年「改年、年のあらたまること」; (63) 拜年「正月の拜」; (64) 地「地」; (65) 地平正「土地が平坦」; (66) 山頂「山の頂」; (67) 山底「山の下、麓」; (68) 大路「大通り」; (69) 小路「小道」; (70) 酒「酒」; (71) 白酒「濁り酒」; (72) 清酒「良か酒」; (73) 飲酒「飲め」; (74) 酒有「酒ある」; (75) 酒無了「酒ない」; (76) 酒醉了「酒酔った」; (77) 飯「御飯」; (78) 喫飯「お上り、食事せよ」; (79) 做飯「御飯の用意をしろ」; (80) 大米飯「米の御飯」; (81) 小米飯「粟の御飯」; (82) 做下飯「会食せよ」; (83) {白市}米「米しらげた」; (84) 肉「肉」; (85) 魚「魚」; (86) 鹿肉「鹿の肉」; (87) 猪肉「豚肉」; (88) 兔肉「兎肉」; (89) 油「油」; (90) 塩「塩」; (91) 醬「味噌」; (92) 醋「酢」; (93) 芥末「からしなの実を粉にしたもの」; (94) 胡椒「胡椒」; (95) 川椒「山椒」; (96) 生薑「しょうが」; (97) 葱「きむびら」; (98) 蒜「ひる」; (99) 菜蔬「酢の物」; (100) 燒茶「茶わかせ」; (101) 甜「甘い」; (102) 苦「苦い」; (103) 酸「すっぱい」; (104) 淡「味が薄い」; (105) 鹹「塩からい」; (106) 辣「辛い」; (107) 硯「硯」; (108) 墨「墨」; (109) 筆「筆」; (110) 弓「弓」; (111) 箭「矢」; (112) 弓袋「ゆみぶくろ」; (113) 箭袋「いびら」; (114) 弓弦「弓の弦」; (115) 窓「窓」; (116) 門「門」; (117) 掛帳「蚊帳」; (118) 帳「幕」; (119) 席子「むしろ」; (120)

靴「靴」；(121) 紙「紙」；(122) 匙「匕、杓子」；(123) 筭「箸」；(124) 篩「ふるい」；(125) 椀子「椀」；(126) 砂貼是「皿」；(127) 木貼是「鉢」；(128) 櫛子「支那製の長持」；(129) 刀子「大刀」；(130) 鍋兒「鍋」；(131) 箒「箒」；(132) 火盆「火鉢」；(133) 衣服「着物」；(134) 袴兒「はかま」；(135) 裙兒「婦人のつける裳」；(136) 瓦「瓦」；(137) 車子「車」；(138) 卓子「竹で造った卓」；(139) 炭「炭」；(140) 柱「柱」；(141) 身子「体、胴」；(142) 面「顔」；(143) 眼「目」；(144) 鼻「鼻」；(145) 口「口」；(146) 耳「耳」；(147) 頭「頭」；(148) 手「手」；(149) 足「足」；(150) 舌頭「舌」；(151) 手指頭「指」；(152) 頭髮「頭髮」；(153) 牙齒「齒」；(154) 花「花」；(155) 綠「青い」；(156) 黒「黒い」；(157) 青「淡綠色」；(158) 牛「牛」；(159) 馬「馬」；(160) 猪「豚」；(161) 鷄「鶏」；(162) 狗「犬」；(163) 羊「羊」；(164) 老鼠「ねずみ」；(165) 蛇「蛇」；(166) 龍「竜」；(167) 象「象」；(168) 獅「獅子」；(169) 虎「虎」。

以上のうち、中国語に関しては(126)“砂貼是”が“磁榑子(兒)”の、(127)“木貼是”は“木榑子(兒)”の誤りではないかとする説が大塚(1990)によって提出されている。

## 7. 収録語彙の比較

上の139例は、いずれも語彙とそれに関連する短い表現からなり、その選定と配列には一定の規則性と体系性が認められる。先に述べたように、『語音翻譯』の成立の経緯に関しては、朝鮮側と琉球側の応対を見ていた朝鮮側の下役が会話や語彙を採録したとする多和田(1988)の説と、朝鮮側がまず中国語を提示して、それを琉球側が翻訳した後、その音を朝鮮側が記述したとする大塚(1990)の説が行われているが、現実のやりとりの中から体系的に上のような語彙を採録することは実質的に不可能であり、前者の説を取るのは困難である。少なくとも語彙篇に関しては後者の見解が正しいと見るべきであろう。

さて、大塚(1990)の説に従った場合、朝鮮側が琉球側に語彙を提示する際に、どのような資料に基づいて中国語語彙の選定と配列を行ったかということが問われなければならない。そこで本節では、『語音翻譯』語彙篇の収録語彙を、他の中国語・外国語対訳語彙集におけるそれと比較してみることにはしたい。以下では、『語音翻譯』に先行するA『鷄林類事』(1103年頃)、B『至元譯語』(1266年頃)、C甲種本『華夷譯語』雜字(1389年)、D『琉球館譯語』(1492年頃?)、及び『語音翻譯』よりも時代が降るE『訓蒙字會』(1527年)、F『譯語類解』(1690年)・『譯語類解補』(1775年)という6種の文献を取り上げ、それぞれの収録語彙を『語音翻譯』との対照の形で示す。依拠したテキストは次の通り：

A. 古今圖書集成本(大提閣1974による)

B. 元禄十二年（1699）覆泰定乙丑年（1325）刊『事林廣記』所収本（石田 1934 による）

C. 涵芬樓秘笈本（臺灣商務印書館 1975 による）

D. ロンドン本（大友・木村 1979 による）

E. 叡山文庫本（檀國大學校 1971 による）

F. ソウル大學校蔵本（亞細亞文化社 1974 による）

このうち A の『鷄林類事』は語彙を部門に分けていないが、それ以外の 5 種が収める部門の一覧を示すと次の通りである：

B. 1 天文、2 地理、3 人事、4 鞍馬、5 軍器、6 五穀、7 飲食、8 身體、9 衣服、10 器物、11 文字、12 珍寶、13 飛禽、14 走獸、15 蟲魚、16 草木、17 菜菓、18 數目、19 時令、20 方隅、21 軍官、22 顔色（なお長田 1953 によると目録では 1、2、19、3、21、4-18、20、22 の順）。

C. 1 天文、2 地理、3 時令、4 花木、5 鳥獸、6 宮室、7 器用、8 衣服、9 飲食、10 珍寶、11 人物、12 人事、13 聲色、14 數目、15 身體、16 方隅、17 通用。

D. 1 天文、2 地理、3 時令、4 花木、5 鳥獸、6 宮室、7 器用、8 人物、9 人事、10 衣服、11 飲食、12 身體、13 珍寶、14 數目、15 通用。

E. 1 天文、2 地理、3 花品、4 草卉、5 樹木、6 菓實、7 禾穀、8 蔬菜、9 禽鳥、10 獸畜、11 鱗介、12 昆蟲、13 身體、14 天倫、15 儒學、16 書式、17 人類、18 宮宅、19 官衙、20 器皿、21 食饌、22 服飾、23 舟舩、24 車輿、25 鞍具、26 軍装、27 彩色、28 布帛、29 金寶、30 音樂、31 疾病、32 喪葬、33 雜語。

F. 1 天文、2 時令、3 氣候、4 地理、5 宮闕、6 官府、7 公式、8 官職、9 祭祀、10 城郭、11 橋梁、12 學校、13 科舉、14 屋宅、15 教閱、16 軍器、17 佃漁、18 館驛、19 倉庫、20 寺觀、21 尊卑、22 人品、23 敬重、24 罵辱、25 身體、26 孕産、27 氣息、28 動靜、29 禮度、30 婚娶、31 喪葬、32 服飾、33 梳洗、34 食餌、35 親屬、36 宴享、37 疾病、38 醫藥、39 卜筮、40 算數、41 争訟、42 刑獄、43 賣買、44 珍寶、45 蠶桑、46 織造、47 裁縫、48 田農、49 禾穀、50 菜蔬、51 器具、52 鞍轡、53 舟舩、54 車輛、55 技戲、56 飛禽、57 走獸、58 昆蟲、59 水族、60 花草、61 樹木、62 瑣説。

以下の表では、各文献において『語音翻譯』の語彙そのものが存在する場合は「○」、ほぼそれに相当すると考えられる語彙が存在する場合にはその語彙を記し（ただし複数ある場合にはそのカテゴリーの最初に現れる語彙を記す）、下のカッコ内にそれが所属する部門を示す。部門の名称のみが共通するものは語彙を空欄とする。なお E の『訓蒙字會』は字書であるため原則として単音節のものしか対応語彙がない。

『語音翻譯』語彙篇収録語彙対照表

No.	語音翻譯	鷄林類事	至元譯語	甲華夷譯語	琉球館譯語	訓蒙字會	譯語類解
31	天	○	○ (天文)	○ (天文)	○ (天文)	○ (天文)	天道 (天文)
32	天陰了				天陰 (天文)		○ (氣候)
33	天晴了				天晴 (天文)		○ (氣候)
34	下雨				○ (天文)		○ (天文)
35	雨晴了						○ (天文)
36	下雪	雪下			○ (天文)		○ (天文)
37	雪住了						○ (天文)
38	日頭	日	日 (天文)	日 (天文)	日 (天文)	日 (天文)	○ (天文)
39	日頭上了						○ (天文)
40	日頭落了						○ (天文補)
41	風	○	○ (天文)	○ (天文)	○ (天文)	○ (天文)	有風 etc. (天文)
42	天亮了						○ (天文)
43	清早	旦	早晨 (時令)	○ (時令)	早起 (時令/人事)	早 (天文)	○ (時令)
44	晌午	午		午 (時令)		晌 (天文)	○ (時令)
45	晚夕	暮	晚也 (時令)	晚 (時令)	晚 (時令)	晚 (天文)	○ (時令)
46	黑夜		夜、夜半 (時令)	夜 (時令)	夜 (時令)	夜 (天文)	○ (時令)
47	白日		日中 (時令)	晝 (時令)	晝 (時令)	晝 (天文)	○ (時令)

48	暖和			暖 (時令)		暖 (雜語)	○ (氣候)
49	天熱			熱 (時令)	熱 (時令)		○ (氣候)
50	涼快			涼 (時令)		涼 (雜語)	○ (氣候)
51	向火						○ (氣候)
52	春	○	○ (時令)	○ (時令)	○ (時令)	○ (天文)	○ (時令)
53	夏	○	○ (時令)	○ (時令)	○ (時令)	○ (天文)	○ (時令)
54	秋	○	○ (時令)	○ (時令)	○ (時令)	○ (天文)	○ (時令)
55	冬	○	○ (時令)	○ (時令)	○ (時令)	○ (天文)	○ (時令)
56	今日	○	○ (時令)		○ (天文/時令)		○ (時令)
57	昨日	○	○ (時令)		○ (天文/時令)		○ (時令)
58	明日	○	○ (時令)		○ (天文/時令)		○ (時令)
59	後日	○	○ (時令)				○ (時令)
60	這月		今月 (時令)				這箇月 (時令)
61	來月		後月 (時令)				○ (時令)
62	開年		明年 (時令)		明年 (時令)		○ (時令)
63	拜年						○ (時令)
64	地		○ (地理)	○ (地理)	○ (地理)	○ (天文)	
65	地平正						

66	山頂						○ (地理)
67	山底						○ (地理)
68	大路			大道 (地理)			○ (地理)
69	小路						○ (地理)
70	酒	○	○ (飲食)	○ (飲食)	○ (飲食)	○ (食饌)	○ (食餌)
71	白酒						○ (食餌)
72	清酒						○ (食餌)
73	飲酒	○					
74	酒有						
75	酒無了						
76	酒醉了				醉了 (人事/飲食)		
77	飯	○	○ (飲食)		○ (飲食)	○ (食饌)	
78	喫飯				○ (飲食)		
79	做飯						○ (食餌)
80	大米飯						○ (食餌)
81	小米飯						○ (食餌)
82	做下飯						○ (食餌)
83	{白市}米						○ (食餌)

84	肉		○ (飲食)	○ (飲食)	○ (飲食)	○ (食饌)	○ (食餌)
85	魚	○	○ (蟲魚)	○ (鳥獸)	○ (鳥獸)	○ (雜語)	○ (食餌)
86	鹿肉						○ (食餌)
87	猪肉						○ (食餌)
88	兔肉						○ (食餌)
89	油	○	○ (飲食)	○ (飲食)		○ (食饌)	香油 etc. (食餌)
90	塩	○	○ (飲食)	○ (飲食)		○ (食饌)	乾塩 (食餌)
91	醬	○	○ (飲食)			○ (食饌)	醬油 (食餌)
92	醋	○		○ (飲食)		○ (食饌)	○ (食餌)
93	芥末						○ (食餌)
94	胡椒				○ (花木)		○ (食餌)
95	川椒						花椒 (食餌)
96	生薑						○ (食餌)
97	葱		○ (菜菓)	○ (花木)		○ (菜蔬)	生葱 (食餌)
98	蒜		○ (菜菓)	○ (花木)		○ (菜蔬)	大蒜 (食餌)
99	菜蔬		菜 (菜菓)		菜 (花木/飲食)		(菜蔬)
100	燒茶						○ (食餌)
101	甜					○ (雜語)	○ (食餌)

102	苦					○ (雜語)	○ (食餌)
103	酸					○ (雜語)	○ (食餌)
104	淡					○ (雜語)	○ (食餌)
105	鹹					○ (雜語)	○ (食餌)
106	辣					○ (雜語)	○ (食餌)
107	硯	○	○ (文字)		○ (器用)	○ (儒學)	硯石 (器具)
108	墨	○	○ (文字)	○ (器用)	○ (器用)	○ (儒學)	○ (器具)
109	筆	○	○ (文字)	○ (器用)	○ (器用)	○ (儒學)	○ (器具)
110	弓	○	○ (軍器)	○ (器用)	○ (器用)	○ (軍裝)	○ (軍器)
111	箭	○	○ (軍器)	○ (器用)	○ (器用)	○ (軍裝)	○ (軍器)
112	弓袋		○ (軍器)				弓鞞袋 (軍器)
113	箭袋		箭匣 (軍器)				箭鞞袋 (軍器)
114	弓弦		○ (軍器)	○ (器用)	弦 (器用)	弦 (軍裝)	○ (軍器)
115	窓		○ (器物)		○ (宮室)	○ (宮宅)	天窓 etc. (屋宅)
116	門		門子 (軍器)	○ (宮室)	○ (宮室)	○ (宮宅)	門扇 etc. (屋宅)
117	掛帳						
118	帳		帳子 (軍器)			○ (器皿)	
119	席子	席	席 (軍器)	席 (器用)		席 (器皿)	○ (器具)



120	靴	鞋	○ (衣服)	○ (衣服)	○ (衣服)	○ (服飾)	靴子 (服飾)
121	紙		○ (文字)	○ (器用)	○ (器用)	○ (儒學)	
122	匙	○	○ (軍器)	○ (器用)		○ (器皿)	銅匙子 (器具)
123	筴	箸	○ (軍器)		○ (器用)	○ (器皿)	筴子 (器具)
124	篩						竹篩子 (器具)
125	椀子	碗	椀 (器物)	碗 (器用)	碗 (器用)		銅椀 etc. (器具)
126	砂貼是						磁碟子? (器具)
127	木貼是						木碟子? (器具)
128	櫃子	匱		櫃 (器用)		櫃 (器皿)	櫃子 (器具)
129	刀子	○	刀 (軍器)		○ (器用)	刀 (器皿)	食刀 etc. (器具)
130	鍋兒		鍋 (器物)	鍋 (器用)		鍋 (器皿)	○ (器具)
131	帚			帚 (器用)		○ (器皿)	掃帚 (器具)
132	火盆	盆	盆 (器物)	木盆 (器用)	盆 (器用)	盆 (器皿)	○ (器具)
133	衣服		(衣服)	(衣服)	(衣服)		
134	袴兒	袴	○ (衣服)	袴 (衣服)		袴 (服飾)	○ (服飾)
135	裙兒	裙				裙 (服飾)	○ (服飾)
136	瓦				○ (地理)	○ (器皿)	{宀/瓦} 瓦 (屋宅)
137	車子	車	車 (器物)	○ (器用)		車 (車輿)	大車 etc. (車輛)

138	卓子	○		○ (器用)	○ (器用)	卓 (器皿)	○ (器具)
139	炭			○ (器用)		○ (器皿)	煤炭 (食餌)
140	柱			○ (宮室)		○ (宮宅)	
141	身子	身		身 (身體)	身 (身體)	身 (身體)	○ (身體)
142	面			○ (身體)		○ (身體)	臉 (身體)
143	眼	○	○ (身體)	○ (身體)	目 (身體)	○ (身體)	○ (身體)
144	鼻		○ (身體)	○ (身體)	○ (身體)	○ (身體)	鼻子 (身體)
145	口	○	○ (身體)	○ (身體)	○ (身體)	○ (身體)	○ (身體)
146	耳	○	○ (身體)	○ (身體)	○ (身體)	○ (身體)	耳朵 (身體)
147	頭	○	○ (身體)	○ (身體)	○ (身體)	○ (身體)	頭腦 (身體)
148	手	○	○ (身體)	○ (身體)	○ (身體)	○ (身體)	手腕子 (身體)
149	足	○	脚 (身體)	脚 (身體)	脚 (身體)	○ (身體)	脚子 (身體)
150	舌頭	舌		舌 (身體)		○ (身體)	○ (身體)
151	手指頭			指 (身體)		指 (身體)	○ (身體)
152	頭髮	髮		髮 (身體)	髮 (身體)	髮 (身體)	○ (身體)
153	牙齒	齒	牙 (身體)	齒 (身體)	牙 (身體)	牙、齒 (身體)	○ (身體)
154	花	○	○ (草木)	○ (花木)	○ (花木)	○ (雜語)	(花草)
155	綠		墨綠 (顏色)	○ (聲色)		○ (彩色)	

156	黒	○	○ (顔色)	○ (聲色)		○ (彩色)	
157	青	○	○ (顔色)	○ (聲色)		○ (彩色)	
158	牛	○	○ (走獸)	○ (鳥獸)	○ (鳥獸)	○ (獸畜)	莽牛 etc. (走獸)
159	馬	○	○ (鞍馬)	○ (鳥獸)	○ (鳥獸)	○ (獸畜)	黃馬 etc. (走獸)
160	猪	○	○ (走獸)	○ (鳥獸)	○ (鳥獸)	○ (獸畜)	牙猪 etc. (走獸)
161	鶏	○	○ (飛禽)	○ (鳥獸)	○ (鳥獸)	○ (禽鳥)	家鶏 etc. (飛禽)
162	狗	犬	○ (走獸)	○ (鳥獸)	○ (鳥獸)	○ (獸畜)	香狗 etc. (走獸)
163	羊	○	○ (走獸)	○ (鳥獸)	○ (鳥獸)	○ (獸畜)	羝羊 etc. (走獸)
164	老鼠	鼠	貂鼠 (走獸)	鼠 (鳥獸)	鼠 (鳥獸)	鼠 (獸畜)	○ (走獸)
165	蛇	○	虵 (蟲魚)	○ (鳥獸)	○ (鳥獸)	○ (昆蟲)	馬蛇子 etc. (昆蟲)
166	龍	○	○ (走獸)	○ (鳥獸)	○ (鳥獸)	○ (鱗介)	
167	象		○ (走獸)	○ (鳥獸)	○ (鳥獸)	○ (獸畜)	○ (走獸)
168	獅		獅子 (走獸)	獅子 (鳥獸)	○ (鳥獸)	○ (獸畜)	獅子 (走獸)
169	虎	○	○ (走獸)	○ (鳥獸)	○ (鳥獸)	○ (獸畜)	老虎 (走獸)

## 8. 語彙篇の部門構成と配列

上の6種の文献において、『語音翻譯』と共通もしくは類似する語彙の数とその総数に占める割合(%)を見てみると次のようになる：

- A. 『鶏林類事』：66例 (47.5%)
- B. 『至元譯語』：76例 (54.7%)
- C. 甲種本『華夷譯語』雜字：75例 (54.0%)
- D. 『琉球館譯語』：69例 (49.6%)

E. 『訓蒙字會』：86 例（61.9%）

F. 『譯語類解』：126 例（90.6%）

このうち、特に注目されるのは A の『鶏林類事』で、語彙自体の共通性は他書に比べて低いものの、次のように『語音翻譯』会話篇の内容と重なる要素も見られる：

『鶏林類事』	『語音翻譯』
問你汝誰何日{食婁}箇。	(3) 你的姓甚麼？
暖酒日蘇亭打里。	(18) 湯酒。
勸客飲盡食日打馬此。	(17) 請一鍾酒。
不善飲日本道安理麻蛇。	(21) 不要饋他喫。
客入日屋裏坐少時。	(24) 請裏頭耍子。(25) 平坐。
問此何物日設審。	(28) 這箇叫甚麼子？

ただ、全体として見れば『語音翻譯』に先行する A、B、C、D の 4 種における共通・類似語彙は概ね半数程度でしかなく、いずれも本篇が直接依拠した資料とは見なし難い。また、F の『譯語類解』と共通する語彙が際立って多いのは、当然ながら『譯語類解』の側が『語音翻譯』の語彙を取り入れた結果と考えられる。

以上のように、筆者が目撃し得た現存の文献から『語音翻譯』が基づいた資料を探ることは困難であると思われるが、しかし上表の結果により本篇の語彙配列におけるおおよその傾向を伺い知ることが可能である。いま B、C、D の部門名に基づいて『語音翻譯』のおおまかな部門分けと各部門の収録語彙を予想してみると次のようになる：

- ア. 天文：(31) ～ (42)
- イ. 時令：(43) ～ (63)
- ウ. 地理：(64) ～ (69)
- エ. 飲食：(70) ～ (106)
- オ. 器用：(107) ～ (132)
- カ. 衣服：(133) ～ (135)
- キ. 身體：(141) ～ (153)
- ク. 顔色：(155) ～ (157)
- ケ. 鳥獸：(158) ～ (169)

『語音翻譯』語彙篇が上のような部門構成を持っていたとした場合、例外的な配列となる語彙は、(120) “靴”、(136) “瓦”、(137) “車子”、(138) “卓子”、(139) “炭”、(140) “柱”、(154) “花” の各語彙であり、本来 (120) は「衣服」に、(136) ～ (140) は「器用」に属していたと見るべきであろう。(154) の帰属先は不明だが、「飲食」とは別に「菜菓」あるいは「花木」を想定すべきかも

知れない。なお、各部門内での語彙配列において例外的なのは(121)“紙”で、他書の状況から見て(107)～(109)の近くに置かれなければならない。これらはいずれも先に述べた伝承過程での乱れに起因する誤配列と考えられる。

また、B『至元譯語』に見られる「文字」、「軍器」、「鞍馬」、「飛禽」、「蟲魚」等の部門が『語音翻譯』には反映されていないが、このうち「軍器」、「鞍馬」はモンゴル時代に特有の分類と考えられるから、本篇の所拠資料が元代の文献ではない可能性を示唆している。さらに、配列から見て『語音翻譯』では(85)“魚”を動物としてではなく食物として扱っていることが伺われ、この点がE『訓蒙字會』やF『譯語類解』といった朝鮮資料と共通していることから、所拠資料が朝鮮半島の文化を反映するものであった可能性もある。

上記ア～ケのような部門構成を持つ中国語の語彙集が、『語音翻譯』語彙篇の基づく資料であったと考えられる。

#### <参考文献>

- 亞細亞文化社 1974 『譯語類解』, 國語國文學資料叢書, 亞細亞文化社。
- 石田幹之助 1934 「『至元譯語』に就いて」, 『東洋學叢編』1, 『東亞文化史叢考』, 東洋文庫, 1973。
- 王雲五主編 1975 『西域行程記・西域番國記・華夷譯語』, 四部叢刊三編 33, 臺灣商務印書館。
- 大塚秀明 1990 「『海東諸国紀』の「語音翻譯」について」, 『言語文化論集』32: 49-62。
- 大友信一・木村晟 1979 『琉球館訳語 本文と索引』, 古典刊行会叢書 2, 古典刊行会。
- 長田夏樹 1953 「元代の中・蒙対譯語彙『至元譯語』」, 『神戸外大論叢』4-2/3, 『長田夏樹論述集』上: 15-64, ナカニシヤ出版, 2000。
- 申叔舟著・田中健夫訳注 1991 『海東諸国紀—朝鮮人の見た中世の日本と琉球—』, 岩波文庫青 458-1, 岩波書店。
- 大提閣 1974 『諺文志外四書』, 原本影印韓國古典叢書(復元版) III 諺解・譯語類, 大提閣。
- 多和田真一郎 1988 「中世朝鮮・中国人と琉球方言」, 『国文学解釈と鑑賞』1: 155-161。
- 檀國大學校附設東洋學研究所 1971 『訓蒙字會』, 東洋學叢書 1, 檀國大學校出版部。